

関連サイト

※外部サイト



©2010 熊本県くまモン

流通アグリビジネス課

くまもとのアグリ&フード

<https://www.kumamoto-agribiz.jp>



KUMA RICH

くまもと地産地消公式SNS



LINE



Facebook



Instagram

むらづくり課

くまもとふるさと応援ネット

<https://furusato.pref.kumamoto.jp>



林業振興課

くまもと林業大学校

<https://www.kumamoto-forestry.ac.jp>



くまもとの森林・林業をまもりつなぐ

くまもと林業大学校



農業技術課

AGRIくまもと

<https://agri-kumamoto.jp>



くまもとグリーン農業

くまもと地産地消公式SNS



水産振興課

公式サイト

FB:熊本県水産振興課

IG:suisanshinkou_kumamoto



Facebook



Instagram

くまもとの 農林畜水産業

2026



くまもとの農林畜水産物

熊本県では、天草などの海から阿蘇などの標高の高い山間地域まで変化に富んだ地形や気候を活かしてたくさんの農林畜水産物が生産されています。



※表紙の写真は、地理的表示保護制度(GI)登録産品です。

目次

第1章	
令和7年(2025年)の主な取組み	1
1 くまもと農林畜水産業の1年	1
2 トピックス	2
第2章	
本県農林畜水産業の姿	7
1 本県の全体像	7
2 概要	8
第3章	
「食のみやこ熊本県」の創造に向けた取組み	25
第4章	
農業・林業・水産業に係る各基本計画の概要	27
第5章	
研究機関の取組み	29
1 各研究機関の概要	29
2 品種の開発	30
第6章	
農林水産部組織図	31

くまもとの農林畜水産業2026

令和8年(2026年)6月発行

編集発行／熊本県

〒862-8570 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

農林水産部 農林水産政策課

TEL 096-333-2364

HP <https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/71/>



第1章 令和7年（2025年）の主な取り組み

1 くまもと農林畜水産業の1年

1 ～ 3月	<ul style="list-style-type: none"> ●「熊本県いぐさ・畳の振興に関する条例」が施行 ●第4回「ジビエ甲子園」を開催～八代工業高校生がジビエ料理で優勝～
4 ～ 6月	<ul style="list-style-type: none"> ●赤潮対策を加速化するためのプロジェクトチームを水産研究センター内に設置 ●「新しい熊本農業のリーダーズ共創事業」によるきめ細やかな就農支援策を展開 ●「熊本県農業経営・就農支援センター」が始動 ●五木村と東京都文京区との森林由来Jクレジットの売買等に関する協定締結 ●くまもと水土里GIS稼働～インフラメンテナンス大賞農林水産大臣賞受賞～ ●若手しいたけ生産者の躍進～全国乾椎茸品評会で43年ぶり農林水産大臣賞受賞～
7 ～ 9月	<ul style="list-style-type: none"> ●熊本県食料・農業・農村基本計画、熊本県森林・林業・木材産業基本計画、熊本県水産基本計画を改定 ●令和7年8月豪雨による農林畜水産業への甚大な被害と早期の復旧・復興に向けた支援 ●「食のみやこ熊本県」創造推進ビジョン策定とくまモン「食いしん坊大使」に就任！ ●令和6年度（2024年度）熊本県産農林畜水産物等の輸出実績が151億円となり、目標の140億円を突破！ ●くまもと県産木材炭素貯蔵量認証制度をスタート～木材の活用による脱炭素に取り組む企業を「デカボナ木業」としてPR～ ●半導体関連企業の進出に伴う営農継続に関する支援 ●大手外食チェーン企業による基盤整備実施地域への農業参入 ●農畜産業の高温適応対策の取組強化 ●大阪・関西万博九州合同催事での熊本食PR
10 ～ 12月	<ul style="list-style-type: none"> ●「水土里まっち（多面的活動組織と外部団体・個人等をつなぐマッチングサイト）」を設置 ●くまもとふるさと食の名人認定証交付式等を「チーム「食のみやこ熊本県」ネットワーク交流会」とコラボ開催 ●県内単一の畜産専門農協が発足 ●熊本県「食のみやこフェスin福岡天神」を福岡で初開催し、来場者23,000人（推計）突破！

2 トピックス

(1) 令和7年8月豪雨による農林畜水産業への甚大な被害と早期の復旧・復興に向けた支援

- 被害概要
 - ・8月10日から11日にかけて線状降水帯が発生し、最大1時間降水量は令和2年7月豪雨を上回るなど、これまでに経験したことがないような大雨となりました。
 - ・短時間のうちに局地的かつ同時多発的に土砂災害等が発生し、死者4名、行方不明者1名、住家被害8,481棟、被害額約1,872億円と、甚大な被害をもたらしました。
 - ・農林畜水産業においても、県内広範囲にわたって被害が生じ、平成28年熊本地震、令和2年7月豪雨に次ぐ、約861億円の被害額となりました。



越水土砂流出被害（美里町）

○農林畜水産被害額（令和7年9月確定）

（資料）熊本県調べ

項目	主な被害状況	被害額
農作物等	・大豆の枯死、しょうがほ場への土砂流入、いぐさ原草や畳表の浸水、野菜苗の冠水、採卵鶏のへい死等	16億円
農業施設 (機械・園芸施設等)	・暖房機、農業用機械（いぐさ専用機械等）の水没による破損、畜舎等への土砂流入による倒壊や損傷等	59億円
農地・農業用施設	・農地への土砂流入、畦畔崩壊、農道の法面崩壊、用排水施設の浸水被害等	605億円
林業	・林道施設の法面崩壊や山腹崩壊等	177億円
水産業	・漂流物防止フェンスの破損等	3億円



トマト苗冠水（宇城市）



林道災害（美里町）



排水機場浸水（上天草市）



あさり・ハマグリ保護区の柵の破損（緑川河口）

○ 復旧・復興への取り組み

- ・ 県では、令和7年12月に「令和7年8月豪雨からの復旧・復興プラン」を策定しました。
- ・ 復旧・復興プランは、「1. 被災者の救済・生活支援」「2. 産業復興支援」「3. 社会・産業インフラの機能回復」「4. 防災・減災の取り組み」の柱で構成され、複数分野にわたる被害への対応に関する課題検証や復旧に向けた様々な取り組みに関する記録・継承を行い、生活や事業の再建に向けた様々な取り組みを庁内各部署連携のもと強力に推進することで、**県民みんなが安心して笑顔になる**熊本の復旧・復興を理念としています。
- ・ 農林畜水産関係では、営農再開に向けた業者への支援や農地・農業用施設等の復旧と併せ、農業用排水機場の強靱化等による農地の内水氾濫対策を推進することとしています。

○ 各種支援

1) 被災農林水産業者の経営継続に必要な資金調達

- ・ 各組合に金融上の措置を依頼
⇒ **金融相談窓口を早急に開設**
- ・ 融資機関や農業共済組合と連携
⇒ 迅速かつ適切な損害評価
- ・ 被災農林水産業者の経営継続に必要な資金調達
⇒ 国の支援策では補えない部分について、**新たな県制度資金を創設**



被災したトマト苗の確保支援

2) 営農再開に向けた早期事業創設と品目別PTの編成

- ・ 早期事業化による営農再開支援
⇒ **営農再開支援事業を創設**
- ・ 迅速に品目別プロジェクトチームを編成
⇒ 市町村や関係団体と連携し支援策を検討
- ・ いぐさ専用機械の再取得・修繕支援
⇒ 専用機械の速やかな復旧を支援
⇒ **修繕業者の掘り起こし**や国との連携も開始



いぐさPRイベント
(東京銀座)

3) 市町村支援の強化と排水機場復旧・強靱化チームの編成

- ・ 市町村が行う災害対応業務の支援
⇒ 調査等に県職員派遣、「**熊本型簡素化査定**」の導入
- ・ 高度な技術を要する排水機場などの復旧支援
⇒ 県が主体となり施設等を復旧
⇒ 再度災害防止に向け応急対策・復旧方針の検討



応急ポンプの設置

4) 林産施設・林道等の早期復旧

- ・ 林産加工・特用林産施設は、復旧工事に早期着手することで**林業生産活動を回復**
- ・ 林道災害復旧事業により、木材搬出等を円滑に実施



復旧した林道法面

5) 山地崩壊の復旧と緊急治山事業予算の確保

- ・ 発災後の初動対応とその後の被害調査を迅速に実施

6) 被害のあった大規模採卵鶏農場の復旧

- ・ 死亡鶏の腐敗や危険箇所が発生により作業が困難となる中、国備蓄資材の活用調整を実施し、周辺への影響を最小化

(2) 「食のみやこ熊本県」の創造に向け本格始動！

- 「食のみやこ熊本県」の創造に向けて、高付加価値化や販路拡大の施策を強化・推進し、稼げる農林畜水産業の実現及び食関連産業の発展につなげていくため、令和7年(2025年)7月に「食のみやこ熊本県」創造推進ビジョンを策定しました。
- 県産食材・グルメ・食文化の魅力を国内外に向けてPRし、熊本ブランドの価値向上を図るため、令和7年(2025年)7月にくまモンが「**食いしん坊大使**」に就任しました。
- 食のイメージ向上と県産食材の消費拡大を図るため、「食のみやこ熊本シェフズアカデミー」を開講し、県産食材の魅力を発信する県内料理人(38名)の育成を行いました。
※ 「食のみやこ熊本県」の創造に向けた取り組み詳細については、第3章(P25)を参照ください。



食いしん坊大使就任記者会見



シェフズアカデミー(1期生)
開講式

(3) 赤潮研究を加速化するためのプロジェクトチームを水産研究センター内に設置

- 有害赤潮の発生抑制や被害の最小化につながる試験研究を組織横断的かつ効率的、効果的に推進するため、水産研究センター内に赤潮対策プロジェクトチームを発足しました。
- また、特別研究員に招へいた国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所の元所長の板倉茂博士を中心として、チーム一丸となり、有害赤潮の試験研究の加速化を図っていくこととしています。
- プロジェクトチームでは、関係漁協や養殖業者と連携し、赤潮発生状況の把握や現場実証試験に取り組むとともに、関係漁協が実施する赤潮対策の取り組みを支援しています。



赤潮対策プロジェクトチーム
発足式の様子

(4) くまもと県産木材炭素貯蔵量認証制度をスタート

- 木材が使われた建築物に貯蔵されている炭素量を認証することで、脱炭素の効果を「見える化」する、「くまもと県産木材炭素貯蔵量認証制度」を創設しました。
- 令和8年(2026年)3月末時点で、6つの企業に対し、「**デカボナ木業(きぎょう)**」※として、363トンの炭素貯蔵量を認証しています。これは、一世帯当たりのCO²排出量約98年分に相当する量です。
- 令和7年(2025年)11月には、「くまもと森林フェスティバル」において認証書交付式を開催し、木村知事より認証書を交付しました。
- 今後も本制度の普及を進め、民間建築物における県産木材の利用や脱炭素社会の実現に向けた取り組みを推進していきます。



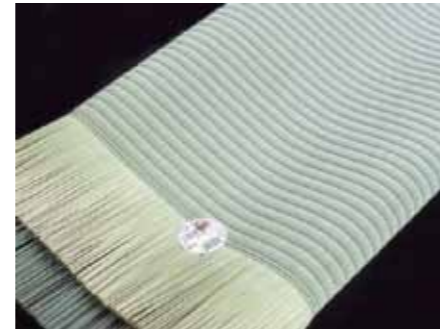
「**デカボナ木業**」ロゴマーク
※脱炭素の英語
Decarbonizationを略し、企業の“企”に“木”を充てた造語



認証書交付式の様子

(5) 「熊本県いぐさ・畳の振興に関する条例」が施行

- 本県は、500年以上のいぐさ栽培の歴史を有する日本一の産地ですが、生産面積、戸数ともに減少傾向が続いており、産地の存続が危ぶまれています。
- このような中、県では、令和7年（2025年）3月に「熊本県いぐさ・畳の振興に関する条例」を施行しました。この条例は、県、市町村、生産者、関係団体、事業者及び県民が一体となって日本一のいぐさ産地を守り、畳に関する伝統と文化を将来へ繋いでいくための基本理念や役割を定めたものです。
- 県では、これまでも県産いぐさ・畳の振興に向けた施策を展開してきましたが、本条例に基づき、国や関係機関と連携しながら、取組を更に進めていきます。



熊本県産いぐさ畳表

(6) くまもと水土里GIS稼働

～インフラメンテナンス大賞農林水産大臣賞受賞～

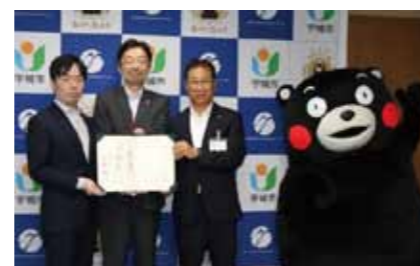
- 令和7年（2025年）から、農地台帳や土地改良施設情報などを搭載した『くまもと水土里GIS』が本格運用となりました。
- 従来のGISによる様々な分析に加え、ノーコードで作成できる現地調査アプリが搭載され、県や市町村の様々な業務の調査や報告書の作成時間が格段に減少。
- 土地改良区が管理する土地改良施設の築造年や構造、修理状況をGISで一元化し、さらに施設の管理や突発事故報告をアプリで行うなど業務改善の取組みが、インフラメンテナンス大賞農林水産大臣賞を受賞しました。



インフラメンテナンス大賞
農林水産大臣賞受賞（首相官邸）

(7) 大手外食チェーン企業による基盤整備実施地域への農業参入

- 国内外で外食店をチェーン展開している株式会社サンマルクホールディングスが小麦の自社生産に向けて参入農地を探中、令和6年（2024年）に宇城市の国営緊急農地再編整備事業区域内の農地が候補地となり検討が開始されました。
- 参入により、工事完了後を見据えた新たな担い手の確保や土地利用率の向上等地域へのメリットも期待できることから、宇城市、サンマルク双方に対して課題整理や意見調整等の支援に取り組みました。
- 令和7年（2025年）9月に県立ち合いのもとサンマルクと宇城市の間で営農に係る連携協定が締結され、同年11月から6.5haの小麦の作付けが開始されました。今後も面積拡大や米の栽培が予定されているため、引き続き農地確保や栽培の支援等を行っていきます。



協定締結式の開催

(8) 農畜産業の高温適応対策の取組み強化について

- 令和6年（2024年）の夏の記録的な高温を受け、本県では農業団体とプロジェクトチームを立ち上げ、各品目の障害や症状等に対する対策や各種支援制度などを取りまとめた事例集を作成し、現地普及に取り組んでいます。
- 令和7年（2025年）の夏も記録的な猛暑でしたが、各産地で被覆資材や遮光などの対策が実践されたことにより、柑橘の日焼け果の減少やイチゴの花芽分化促進による年内収量確保など、一定の成果が得られました。
- 引き続き、新たな技術情報や現地試験等で得られた成果を踏まえ、事例集のバージョンアップを図るとともに、速やかに農業者に情報発信していきます。



被覆資材による柑橘の日焼け果対策



イチゴの育苗期遮光による
花芽分化の促進

(9) 第4回「ジビエ甲子園」を開催

～作るのは罨だけじゃない！八代工業高校生がジビエ料理で初優勝～

- 本県では、地域ぐるみで野生鳥獣が生息しにくい環境整備を行う、①「えづけSTOP！対策」を基本として、②「農地への侵入・被害防止」③「有害鳥獣捕獲」、④「ジビエ利活用の推進」の4本柱により、野生鳥獣による農作物被害防止と捕獲した鳥獣の利活用を推進しています。
- 県内の様々な高校において、鳥獣被害防止対策技術の習得や捕獲等の活動が展開されており、その活動の一環として野生鳥獣の食肉を活用した商品開発を行い、売り上げを競う「ジビエ甲子園」を令和3年度（2021年度）から開催しています。
- 「最初に200食を売り上げた学校が優勝」というルールのもと、令和7年（2025年）2月1日に開催された第4回は「オシカトルティーヤ」を提供した八代工業高校が初優勝を果たしました。



ジビエ甲子園の様子

(10) 「食のみやこ熊本県」の創造に向けた担い手の確保・育成のため、「新しい熊本農業のリーダーズ共創事業」によるきめ細やかな就農支援を展開。「熊本県農業経営・就農支援センター」が始動

- 「新しい熊本農業のリーダーズ共創事業」の創設により、親元就農者をはじめとした担い手の確保・育成を図るため、就農啓発から相談対応、技術習得研修、就農定着、経営発展・継承等までのきめ細やかな就農支援策の強化・充実を図りました。
- 本県農業の担い手確保を図り、複雑化・多様化する相談に迅速に対応するため、これまで設置していた3つの機関を統合し、新たに「熊本県農業経営・就農支援センター」を発足しました。専属スタッフを配置するとともに、税理士や中小企業診断士などの専門家や関係機関と連携しながら、ワンストップでの伴走型支援を展開しています。



専門家による相談対応の様子

第2章 本県農林水産業の姿

1 本県の全体像

- 熊本県は、世界最大級のカルデラを有する阿蘇や、美しい島々からなる天草に代表される素晴らしい自然にあふれています。また、阿蘇山、九州山地に源を発する菊池川、球磨川などの一級河川や豊富な地下水など、水資源にも恵まれています。
- 三方を山に囲まれているため、天草地方を除いて、全体的に内陸性気候であり、平均気温（平年値）は熊本市で17°C前後、阿蘇地方で13°C前後となっています。
- 年間降水量（平年値）は、平地で約2,000mm、山地で約3,000mmとなっています。
- このような豊かな自然の恵みを背景に、多様な農林水産物が生産されています。

【主要指標】

面積	7,409km ²	令和6年全国都道府県市区町村別面積調
総人口	167万7千人 (男 79万7千人 女 87万9千人)	令和8年3月1日人口推計
総世帯数	71万9千世帯	令和2年国勢調査人口等基本集計
県内総生産	6兆7,237億円 (うち農林水産業 1,876億円)	令和5年度県民経済計算報告書

【市町村】

14市23町8村（45市町村）



【R7気象】（カッコ内は平年値）

熊 本	
気温	18.1°C (17.2°C) 最高38.0°C、最低-4.5°C
日照時間	2184.4時間 (1996.1時間)
降水量	1998.0mm (2007.0mm)
牛 深	
気温	19.0°C (18.2°C) 最高37.5°C、最低-1.3°C
日照時間	2162.7時間 (1954.5時間)
降水量	1805.5mm (2109.8mm)

阿蘇乙姫	
気温	14.0°C (13.2°C) 最高34.8°C、最低-9.7°C
日照時間	1845.6時間 (1697.1時間)
降水量	2265.0mm (3009.6mm)
人 吉	
気温	16.6°C (15.8°C) 最高36.8°C、最低-5.6°C
日照時間	1804.3時間 (1817.9時間)
降水量	2104.5mm (2534.9mm)

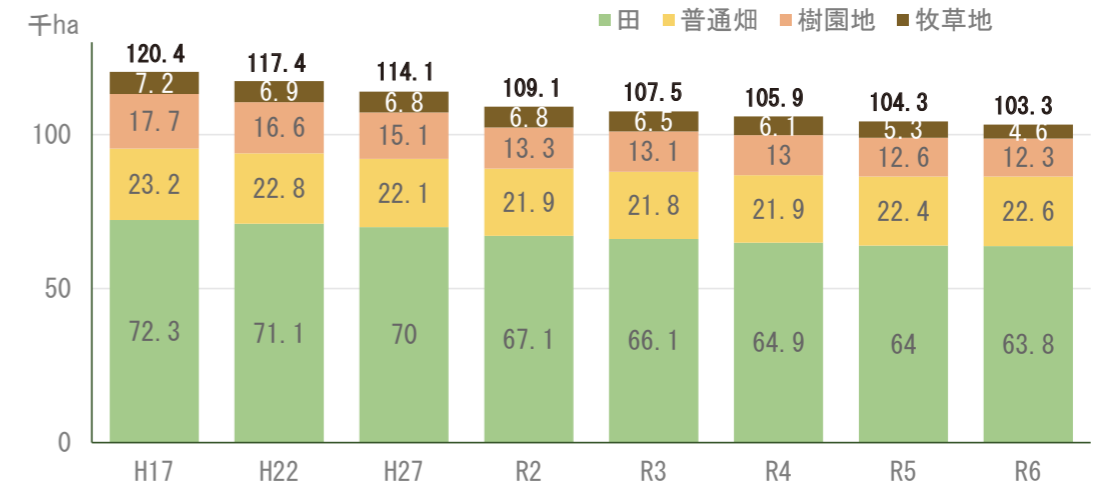
(資料) 気象庁

2 農畜産業の概要

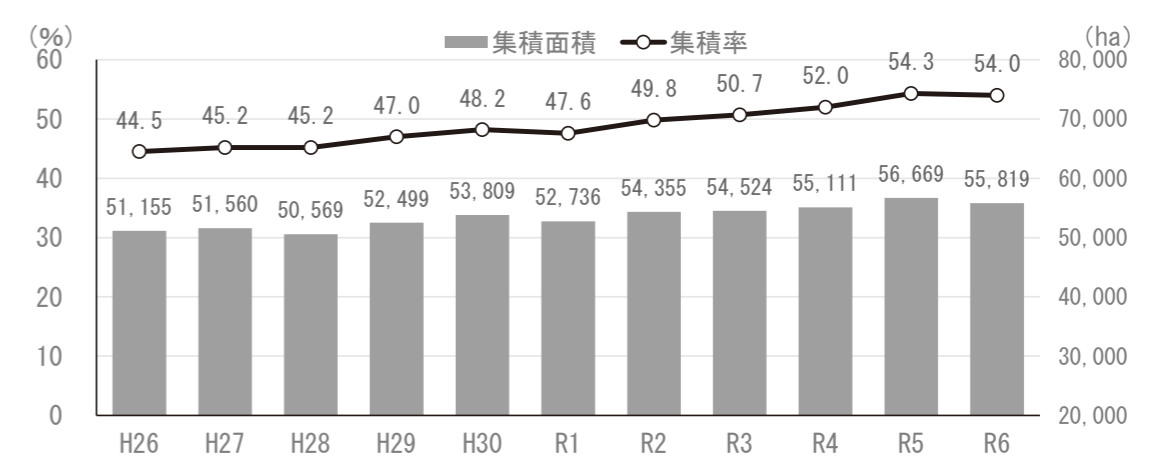
- 農業生産の主要な担い手である認定農業者数は全国第3位、基幹的農業従事者数は全国第4位です。
- 耕地面積は、建物施設用地等への転用が進んでいることなどにより、緩やかな減少傾向が続いています。
- 平成24年度（2012年度）から担い手への農地集積に向けて、年間2,100haの農地集積を目標とした取組みを開始しました。
- 地域での話し合い等の結果から、令和6年度（2024年度）の集積面積は55,819haとなっています。

区分	単位	全国	九州	熊本県	熊本県の全国に占める	
					順位	割合(%)
農業経営体数 (R7年)	千経営体	836.1	131.4	27.6	7	3.3%
認定農業者数 (R7.3月末)	千人	212.1	41.9	9.7	3	4.6%
基幹的農業従事者数 (R7年)	千人	1,036.2	171.5	40.0	4	3.9%
耕地面積 (R6年)	千ha	4,272.0	502.4	103.3	14	2.4%
田面積 (R6年)	千ha	2,319.0	293.9	63.8	13	2.8%
畑面積 (R6年)	千ha	1,952.0	208.5	39.5	9	2.0%
樹園地 (R6年)	千ha	248.6	48.3	12.3	6	4.9%
牧草地 (R6年)	千ha	585.9	11.8	4.6	6	0.8%

【耕地面積の推移】



【農地集積の状況】



(資料) 県農林水産部調べ

(1) 全国に占めるくまもと農畜産業の地位

- 農産物では、全国第1位が6品目(トマト、すいか、不知火類(デコポン)、宿根カスミノウ、葉たばこ、いぐさ)あり、その他にも、なす、メロン、くり、トルコギキョウなど全国的にも上位を占める品目が数多くあります。
- 畜産においては、乳用牛・肉用牛とも飼養頭数で全国3位及び4位と上位にあり、特に乳用牛の頭数は西日本一となっています。

区分	単位	全国	九州	熊本県	熊本県の全国に占める					
					順位	割合(%)				
農業産出額	(R6年)	億円	108,200	20,445	4,116	6	3.8%			
生産農業所得	(R6年)	億円	40,932	7,605	1,744	3	4.3%			
主要農産物の収穫量	野	トマト	(R6年)	千t	663.6	190.4	129.4	1	19.5%	
		すいか	(R6年)	千t	299.0	…	42.1	1	14.1%	
		なす	(R6年)	千t	280.2	…	33.6	2	12.0%	
		メロン	(R6年)	千t	137.5	…	20.9	2	15.2%	
		菜	カリフラワー	(R6年)	千t	19.4	…	2.0	3	10.5%
			しょうが	(R6年)	千t	40.9	…	4.0	3	9.9%
			アスパラガス	(R6年)	千t	22.3	…	1.9	3	8.5%
			いちご	(R6年)	千t	156.6	…	11.1	3	7.1%
	果	不知火類(デコポン)	(R5年)	千t	43.0	…	17.7	1	41.1%	
		くり	(R6年)	千t	14.0	…	1.6	2	11.7%	
		樹	なつみかん	(R5年)	千t	29.6	…	5.6	2	18.9%
			うんしゅうみかん	(R6年)	千t	559.6	…	63.8	4	11.4%
	花	宿根カスミノウ	(R6年)	千本	47,600	…	17,900	1	37.6%	
		トルコギキョウ	(R6年)	千本	78,300	…	9,510	2	12.1%	
	土地利用型・特産	葉たばこ(販売量)	(R6年)	千t	8.3	4.4	1.8	1	22.0%	
		いぐさ	(R7年)	千t	3.6	…	3.6	1	100%	
水稻		(R7年)	千t	7,790	786.1	169.1	16	2.2%		
かんしょ		(R6年)	千t	717.0	…	18.2	6	2.5%		
家畜の飼養頭数	畜産	乳用牛	(R7年)	千頭	1,293	94	42	3	3.2%	
		肉用牛	(R7年)	千頭	2,595	956	133	4	5.1%	
		豚	(R6年)	千頭	8,798	2,753	348	8	4.0%	
		採卵鶏	(R6年)	千羽	170,776	21,842	2,481	23	1.5%	
		肉養鶏	(R6年)	千羽	144,859	74,080	3,746	8	2.6%	

(資料) 農林水産省「2025年農林業センサス」、「作物統計」、「生産農業所得統計」、「畜産統計」他
 ※主要農畜作物の収穫量の欄の「…」は、主要産地県のみ調査されている作物。順位は主産地県中の順位。

- 令和6年(2024年)の農業産出額は、鶏卵、肉用牛等が減少した一方で、米や野菜、豚、乳用牛等が増加したため、前年より359億円増加(前年比109.6%)の4,116億円となっています。
- 令和6年(2024年)の生産農業所得は、前年より190億円増加(前年比112.2%)の1,744億円で、全国3位、九州1位となっています。

【農業産出額の全国順位推移】

順位	R4(億円)	R5(億円)	R6(億円)
1	北海道 12,919	北海道 13,478	北海道 14,817
2	鹿児島 5,114	鹿児島 5,438	鹿児島 5,689
3	茨城 4,409	茨城 4,571	茨城 5,494
4	千葉 3,676	千葉 4,029	千葉 4,533
5	熊本 3,512	熊本 3,757	青森 4,119
6	宮崎 3,505	宮崎 3,720	熊本 4,116
7	青森 3,168	青森 3,466	宮崎 3,725
8	愛知 3,114	愛知 3,207	愛知 3,551
9	栃木 2,718	岩手 2,975	栃木 3,448
10	長野 2,708	栃木 2,959	岩手 3,269
合計	全国 90,015	全国 95,582	全国 108,200

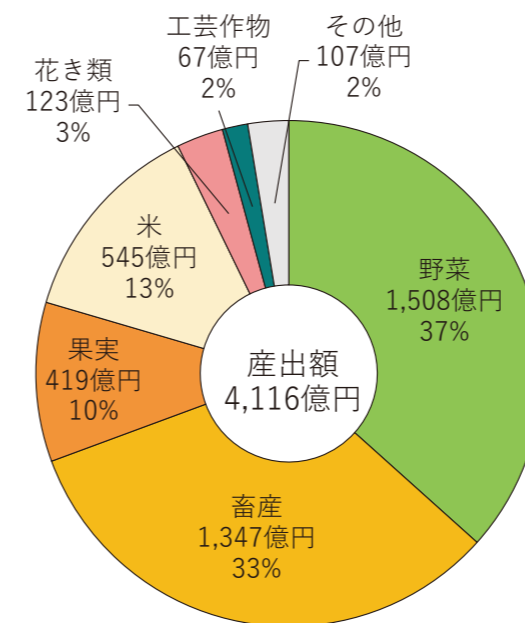
(資料) 農林水産省「生産農業所得統計」

【生産農業所得の全国順位推移】

順位	R4(億円)	R5(億円)	R6(億円)
1	北海道 4,742	北海道 5,167	北海道 6,242
2	茨城 1,517	熊本 1,554	茨城 2,002
3	鹿児島 1,493	茨城 1,539	熊本 1,744
4	熊本 1,446	鹿児島 1,534	鹿児島 1,623
5	千葉 1,220	千葉 1,262	千葉 1,537
6	宮崎 1,194	青森 1,226	青森 1,515
7	愛知 1,173	宮崎 1,219	愛知 1,347
8	青森 1,148	愛知 1,157	栃木 1,323
9	栃木 1,059	長野 1,093	長野 1,316
10	長野 998	栃木 1,086	宮崎 1,235
合計	全国 31,051	全国 33,422	全国 40,932

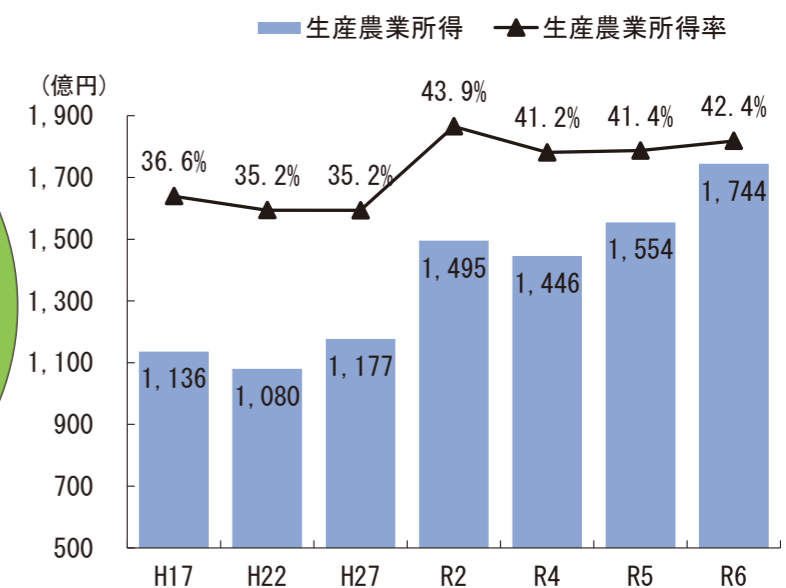
(資料) 農林水産省「生産農業所得統計」

【農業産出額に占める品目別割合(R6)】



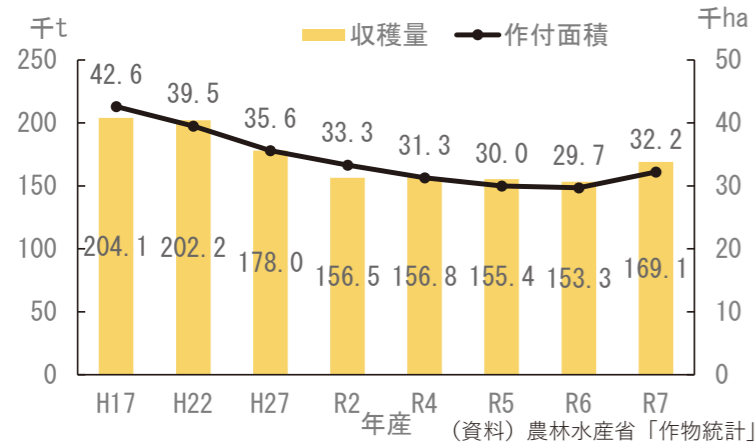
(資料) 農林水産省「生産農業所得統計」
 注) 野菜には、いも類を含む。

【生産農業所得の推移】

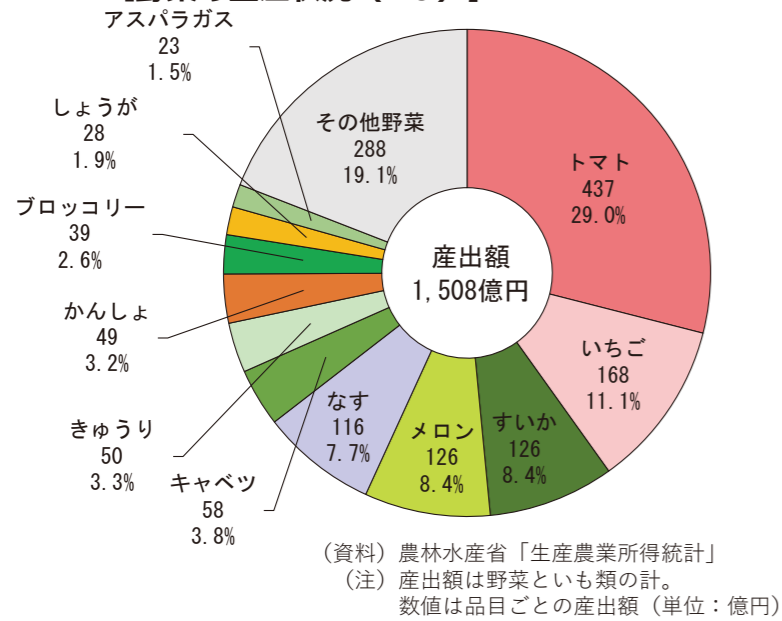


(資料) 農林水産省「生産農業所得統計」

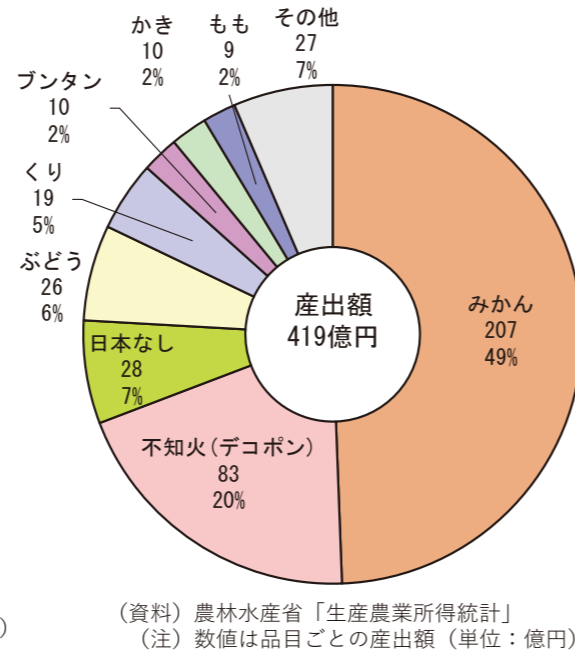
【主食用米の生産状況（R6）】



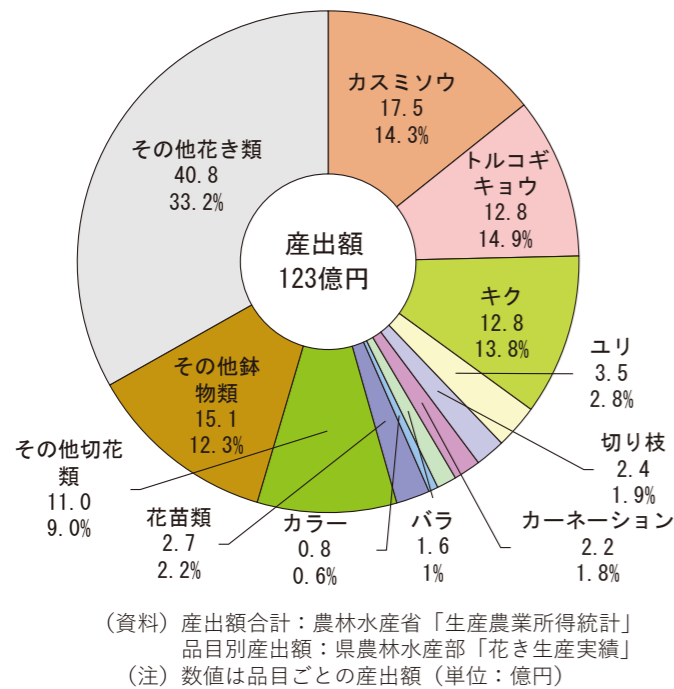
【野菜の生産状況（R6）】



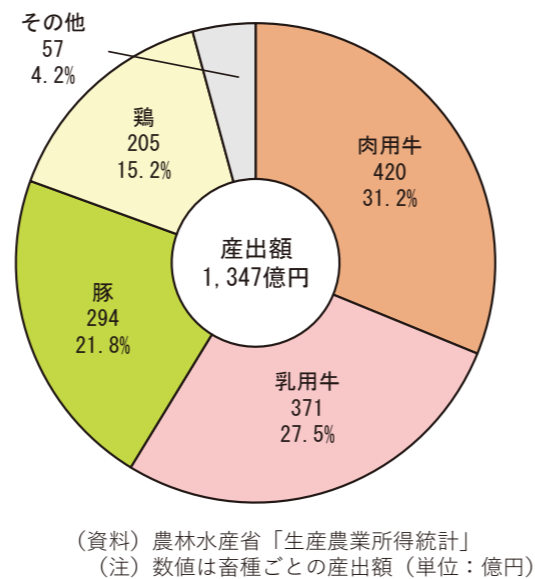
【果実の生産状況（R6）】



【花きの生産状況（R6）】



【畜産の生産状況（R6）】



農村の魅力と食文化を未来へつなぐ取組

○「水土里まっち」を設置～新たな支援者の獲得～

「水土里まっち」は高齢化等により地域の共同活動への参加者不足を手助けするマッチングサイトです。環境保全等の社会活動に、参加したい人と支援を求める地域をつなぎます。



水路の泥上げ



水路法面の防草シート設置

○くまもとふるさと食の名人認定証交付式等を「チーム「食のみやこ熊本県」ネットワーク交流会」とコラボ開催

新たに認定された「くまもとふるさと食の名人」の皆様が、ネットワーク交流会の参加者に郷土料理をふるまい、食文化の普及・啓発活動を行いました。



令和7年度「くまもとふるさと食の名人」認定証交付式・感謝状贈呈式



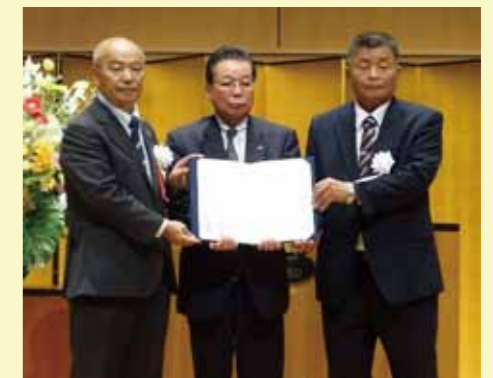
交流会の様子

県内単一の畜産専門農協が発足

○令和6年(2024年)4月、熊本県畜産農業協同組合と球磨畜産農業協同組合が合併し、県内の畜産専門農協が一本化されました。

○この合併は、平成6年(1994年)に始まった畜産農協の合併の取組みから数えて、実に30年の歳月を経て実現したものです。

○その後、県畜産農業協同組合は、県畜産農業協同組合連合会からの権利義務承継手続きを完了し、令和7年(2025年)10月1日、県内単一の畜産専門農協として新たに発足しました。



事業承継セレモニー (県畜連提供)

3 林業の概要

- 令和6年（2024年）の林業産出額は163億円で全国7位となっており、このうち木材産出額は140億円で全国3位となっています。
- 令和6年（2024年）の素材生産量は920千m³で全国6位となっているほか、乾しいたけ生産量は147トンで全国3位となっています。

【全国に占めるくまもと林業の地位】

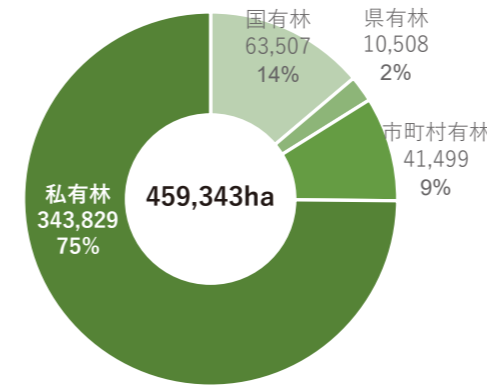
項目	単位	全国	九州・沖縄	熊本	全国における順位	九州における順位
森林資源（※1）						
林野率	%	67	62	62	32	4
林野面積	千ha	25,025	2,770	459	18	3
民有林林野面積（※2）	千ha	17,368	2,228	395	18	4
人工林面積	千ha	10,093	1,435	279	9	2
人工林率	%	40	52	61	7	3
林業生産（※3）						
林業産出額	億円	4,770	970	163	7	3
うち木材産出額	億円	2,369	632	140	3	2
造林（※4）						
民有林造林面積	ha	21,708	5,800	936	6	4
スギ造林面積	ha	8,524	5,198	804	4	4
ヒノキ造林面積	ha	1,177	167	55	10	1
伐採（※5）						
素材生産量	千m ³	19,763	4,923	920	6	3
スギ素材生産量	千m ³	11,716	3,959	636	5	3
ヒノキ素材生産量	千m ³	3,019	831	261	2	1
特用林産物（※6）						
乾しいたけ生産量	トン	1,574	1,079	147	3	3
生しいたけ生産量	トン	61,959	8,480	411	31	6
たけのこ生産量	トン	20,865	13,886	1,991	4	3
木炭生産量	トン	10,849	1,719	478	X	X
竹材生産量	千束	879	704	146	2	2
林道（※7）						
民有林林道総延長距離	km	89,575	13,939	2,069	15	3
民有林林道密度	m/ha	5.2	6.3	5.2	25	6
高性能機械導入数（※8）						
高性能機械導入数	台数	16,431	3,349	626	7	2
木材産業（※5）						
製材工場数	工場	3,547	597	122	6	1
出力数	kW	606,434	141,696	24,341	5	3
1工場平均出力数	〃	171	237	200	-	-
製材品出荷量	千m ³	7,603	2,101	404	5	3
森林組合（※9）						
森林組合数	組合	597	79	15	14	1
組合員数	人	1,442,789	273,201	34,792	18	4
1組合平均組合員数	人	2,417	3,458	2,319	-	-
林業経営（※10）						
林業経営体数	経営体	23,300	4,579	888	7	3

（資料）※1 都道府県別森林率・人口林率（林野庁HP）
 ※2 森林資源現況調査表（林野庁HP）
 ※3 農林水産省「令和6年 林業産出額」
 ※4 林野庁「森林・林業統計要覧2025」
 ※5 農林水産統計「令和6年木材需給報告書」
 ※6 特用林産物基礎調査（令和6年）ただし、個人、法人又はその他の団体の個々の秘密に属する事項を秘匿するため、統計数値を公表していない。
 ※7 民有林森林整備施策のあらまし（令和7年2月）
 ※8 林野庁林業機械保有状況調査（令和6年度版）高性能機械導入数は、フェラーバンチャー、ハーベスタ、プロセッサ、スキッダ、フォワードタワーヤーダ、スイングヤーダ、フォーク型グラブバケット、その他高性能林業機械の8種類の合計
 ※9 農林水産統計「令和6年森林組合一斉調査結果」
 ※10 農林水産省統計部「2025年世界農林業センサス」

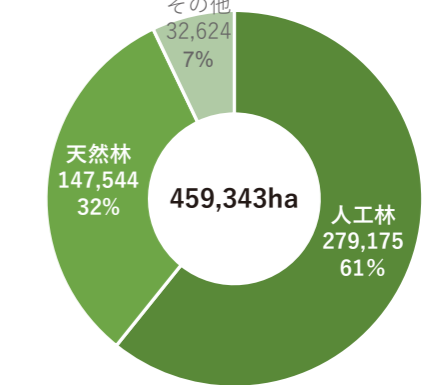
- 令和7年（2025年）4月時点の本県の森林面積は459,343haで、県土全体の約6割を占めています。このうち私有林が75%で、公有林（県+市町村）と合わせた民有林は86%、林種区分では人工林が61%となっています。
- 保安林は、森林面積の約4割となる179,860haで、このうち水源かん養保安林及び土砂流出防備保安林が94%を占めています。
- 民有林の樹種別面積では、スギとヒノキで約6割を占めており、スギ・ヒノキ人工林のうち主伐が可能な面積（スギ41年生以上、ヒノキ46年生以上）が全体の85%を占めています。

【森林面積】

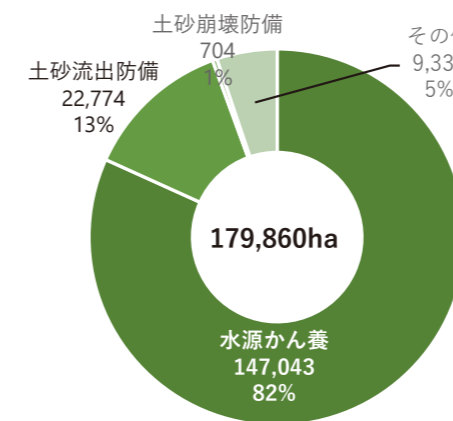
① 所有形態別森林面積



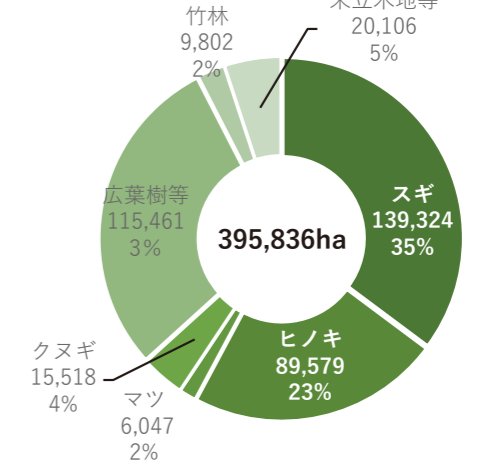
② 人工林・天然林の割合



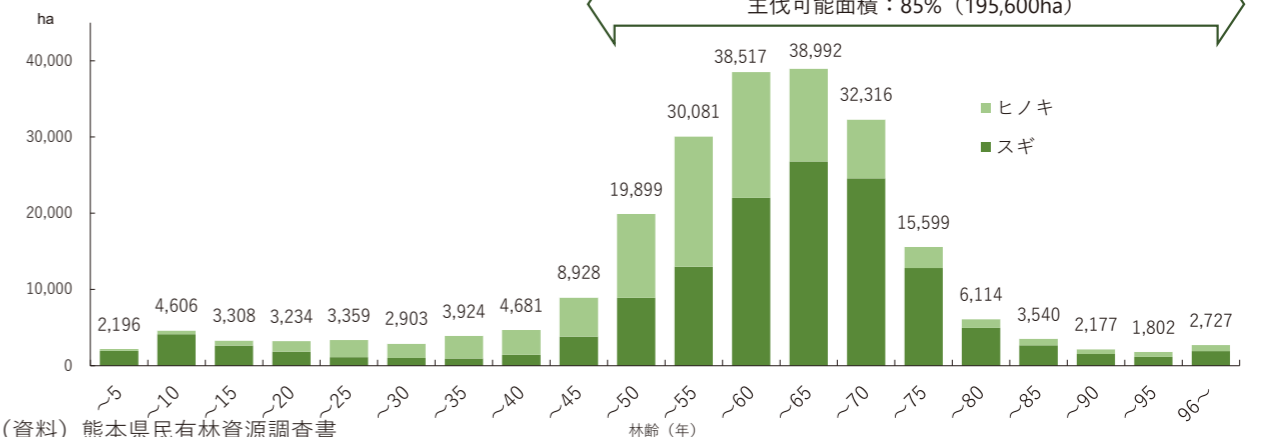
③ 保安林の面積（兼種含む）



④ 民有林の樹種別面積



⑤ 民有林の林齢構成（面積）



（資料）熊本県民有林資源調査書
 （注）数字の単位未満は四捨五入しており、総数が一致しない場合がある。

(1) 林業産出額

- 令和6年（2024年）林業産出額は163億円で、前年（164億円）に比べて1億円減少し、全国第7位となっています。
- 内訳は、木材生産（スギ、ヒノキ、広葉樹、竹材）が140億円（構成比86%）、木材以外の栽培きのご類生産等（きのご類、薪炭、林野副産物）が23億円（14%）となっています。

【林業産出額の推移】



(資料) 農林水産統計「令和6年 林業産出額」

【林業産出額順位 (R6)】

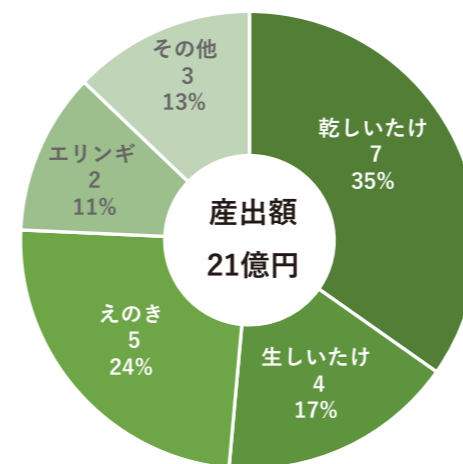
順位	都道府県	産出額	シェア
1	長野	659	13.8%
2	新潟	496	10.4%
3	北海道	408	8.5%
4	宮崎	288	6.0%
5	岩手	185	3.9%
6	大分	181	3.8%
7	熊本	163	3.4%
8	福岡	161	3.4%
9	秋田	157	3.3%
10	福島	130	2.7%
合計	全国	4,770	

(3) 栽培きのご類部門

- 令和6年（2024年）林業産出額のうち、栽培きのご類については、21億円となっており、全国第24位となっています。
- 主な内訳は、乾しいたけが7億円（構成比35%）で全国第3位、生しいたけが4億円（17%）で全国第32位となっています。

【栽培きのご類の産出額順位表 (R6)】

【栽培きのご類の生産状況 (R6)】



栽培きのご類全体				生しいたけ				乾しいたけ			
順位	都道府県	生産額	シェア	順位	都道府県	生産額	シェア	順位	都道府県	生産額	シェア
1	長野	584	25.2%	1	徳島	67	12.0%	1	大分	31	39.0%
2	新潟	485	20.9%	2	長野	40	7.2%	2	宮崎	12	14.9%
3	福岡	138	5.9%	3	岩手	34	6.1%	3	熊本	7	9.1%
4	北海道	81	3.5%	4	秋田	34	6.1%	4	岩手	5	5.8%
5	静岡	7	3.0%	5	群馬	33	5.9%	5	愛媛	4	4.5%
6	徳島	67	2.9%	6	福島	32	5.8%	6	静岡	3	4.1%
7	三重	58	2.5%	7	栃木	28	4.9%	7	長崎	2	2.2%
8	大分	56	2.4%	8	北海道	25	4.5%	8	鹿児島	2	2.2%
9	宮崎	51	2.2%	9	長崎	21	3.7%	9	岐阜	2	1.9%
10	群馬	48	2.1%	10	新潟	20	3.6%	10	群馬	1	1.2%
⋮				⋮				10	北海道	1	1.2%
24	熊本	21	0.9%	32	熊本	4	0.6%	10	福岡	1	1.2%
								10	高知	1	1.2%
合計	全国	2,323		合計	全国	558		合計	全国	81	

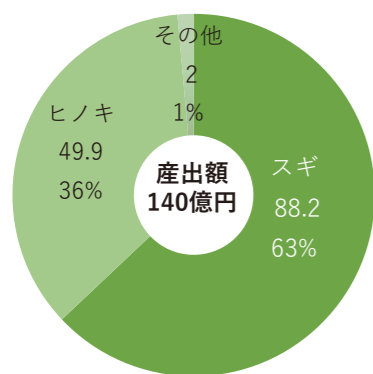
単位：億円

(資料) 農林水産統計「林業産出額」

(2) 木材生産部門

- 令和6年（2024年）林業産出額の木材生産部門については、140億円で全国第3位です。
- 主な内訳は、スギが88億円（構成比63%、全国シェア7%）で全国第4位、ヒノキが50億円（構成比36%、全国シェア10%）で全国第1位となっています。

【木材の生産状況 (R6)】



【木材産出額順位表 (R6)】

木材産出額				スギ産出額				ヒノキ産出額			
順位	都道府県	産出額	シェア	順位	都道府県	産出額	シェア	順位	都道府県	産出額	シェア
1	北海道	319	13.5%	1	宮崎	208	16.1%	1	熊本	50	9.8%
2	宮崎	235	9.9%	2	秋田	109	8.4%	2	岡山	47	9.2%
3	熊本	140	5.9%	3	大分	97	7.5%	3	高知	42	8.2%
4	岩手	140	5.9%	4	熊本	88	6.8%	4	愛媛	37	7.3%
5	大分	123	5.2%	5	岩手	71	5.5%	5	岐阜	33	6.5%
6	秋田	120	5.1%	6	青森	61	4.7%	6	宮崎	26	5.0%
7	福島	86	3.6%	7	鹿児島	60	4.6%	7	大分	24	4.7%
8	鹿児島	80	3.4%	8	宮城	52	4.0%	8	静岡	23	4.5%
9	青森	78	3.3%	9	福島	51	3.9%	9	三重	21	4.1%
10	岐阜	73	3.1%	10	栃木	44	3.4%	10	広島	19	3.8%
合計	全国	2,369		合計	全国	1,291		合計	全国	511	

(資料) 農林水産統計

若しいたけ生産者の躍進 ～全国乾椎茸品評会で43年 ぶりに農林水産大臣賞受賞～

- 6月28日に静岡県で行われた第72回全国乾椎茸品評会において、43年ぶりとなる農林水産大臣賞を石原敬（いしはらけい）氏（菊池市）が受賞されました。また、林野庁長官賞を石原裕（いしはらゆう）氏（菊池市）と落合龍見（おちあいたつみ）氏（多良木町）が受賞されました。



受賞された石原裕氏（左）
石原敬氏（右）

五木村と文京区との森林 由来Jクレジットの売買等に関 する協定締結

- 令和7年5月、五木村、文京区及び熊本県の三者にて「二酸化炭素の削減に資する森林由来Jクレジットの売買等に関する協定」を締結しました。
- 本協定では、Jクレジットの売買のみならず、木材利用や森林環境教育分野等の連携についても盛り込まれていることから、今後の更なる交流促進が期待されます。



協定締結式

記念撮影

4 水産の概要

- 令和6年（2024年）の海面養殖業の産出額は全国第4位で、全国第2位のしまあじ、まだい、ふぐ類、全国第3位のくるまえば、全国第4位ののり類、真珠など、全国的に上位を占める品目が数多くあります。
- 海面漁業では、このしろ（全国第3位）、たちうお（全国第3位）、あさり類（全国第5位）などが、全国上位の品目です。

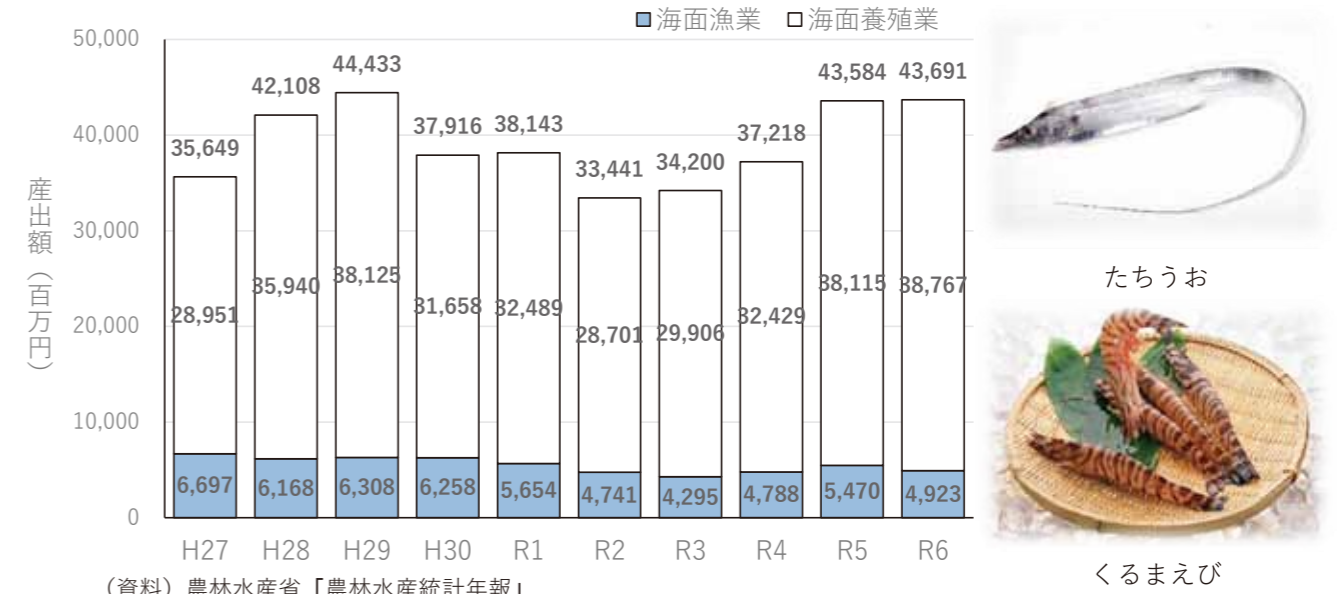
【全国に占めるくまもと水産業の地位】

	単位	全国	九州	熊本	熊本県の全国に占める		
					順位	割合(%)	
漁業経営体数	(R5年) 経営体数	65,662	17,828	2,166	10	3.3	
漁業就業者数	(R5年) 人	121,389	29,534	4,121	9	3.4	
漁船隻数	(R5年) 隻	109,283	27,155	4,006	8	3.7	
海面漁業産出額	(R6年) 百万円	889,390	137,837	4,923	31	0.6	
海面養殖業産出額	(R6年) 百万円	589,075	246,157	38,767	4	6.6	
海面漁業漁獲量	(R6年) t	2,786,195	473,006	11,278	31	0.4	
海面養殖業収穫量	(R6年) t	802,927	220,693	43,240	8	5.4	
内水面漁業漁獲量	(R6年) t	17,915	189	11	31	0.1	
内水面養殖業収穫量	(R6年) t	29,131	10,847	339	13	1.2	
主な養殖収穫量	しまあじ	(R6年) t	4,428	1,523	769	2	17.4
	まだい	(R6年) t	68,439	15,193	10,717	2	15.7
	ふぐ類	(R6年) t	2,758	1,988	380	2	13.8
	くるまえば	(R6年) t	1,383	625	231	3	16.7
	のり類	(R6年) t	195,048	96,751	26,006	4	13.3
	真珠	(R6年) kg	12,421	6,283	458	4	3.7
主な漁業漁獲量	たちうお	(R6年) t	4,192	1,532	394	3	9.4
	このしろ	(R6年) t	3,756	530	279	3	7.4
	あさり類	(R6年) t	4,439	1,309	193	5	4.3
	がざみ類	(R6年) t	1,316	317	63	6	4.8
	その他の海藻	(R6年) t	12,444	3,447	599	6	4.8
	くるまえば	(R6年) t	165	53	7	7	4.2

(資料) 農林水産省「漁業センサス」、「農林水産統計年報」

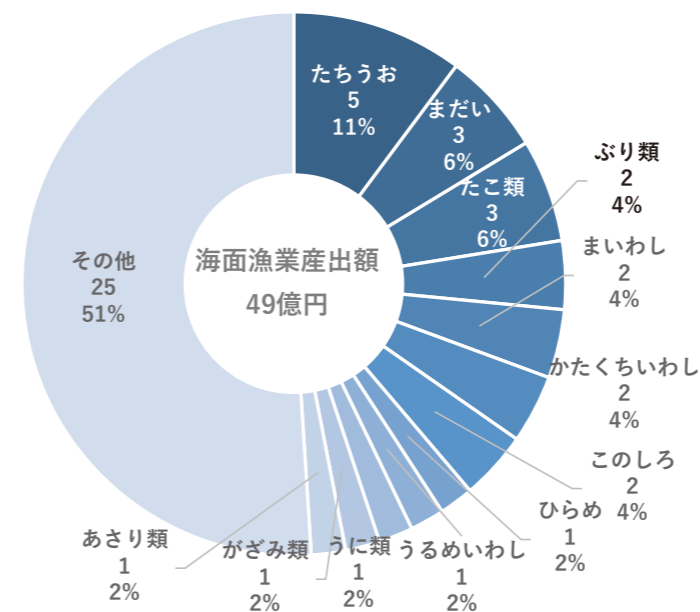
- 令和6年（2024年）海面漁業及び海面養殖業の産出額は、437億円で前年の436億円に比べ1億円増加し、全国第10位となっています。
- その内訳として、海面漁業産出額は、49億円で前年の55億円に比べ6億円減少し、全国第31位となっています。
- 海面養殖業産出額は、388億円で、前年の381億円に比べ7億円増加し、全国第4位となっています。

【海面漁業及び海面養殖業の産出額の推移】

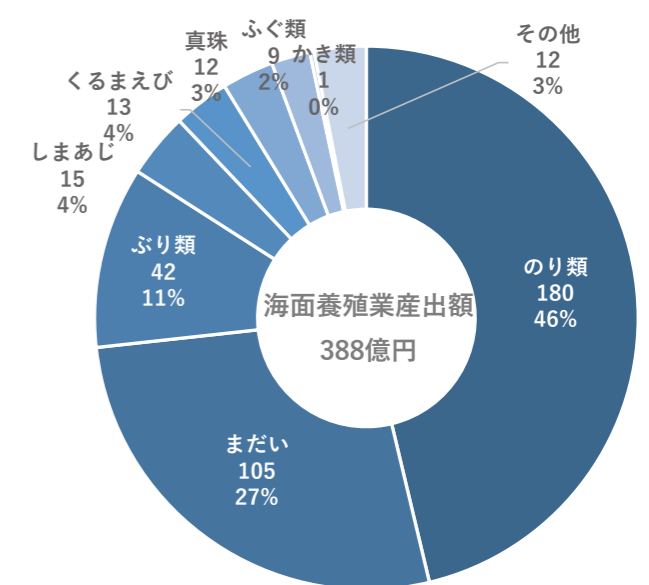


- 魚種別にみると、海面漁業では、たちうお5億円（構成比11%）、まだい3億円（構成比6%）、たこ類3億円（構成比6%）、ぶり類2億円（構成比4%）となっています。
- 海面養殖業では、のり類180億円（構成比46%）、まだい105億円（構成比27%）、ぶり類42億円（構成比11%）、しまあじ15億円（構成比4%）となっています。

【海面漁業産出額の魚種別構成比 (R6)】



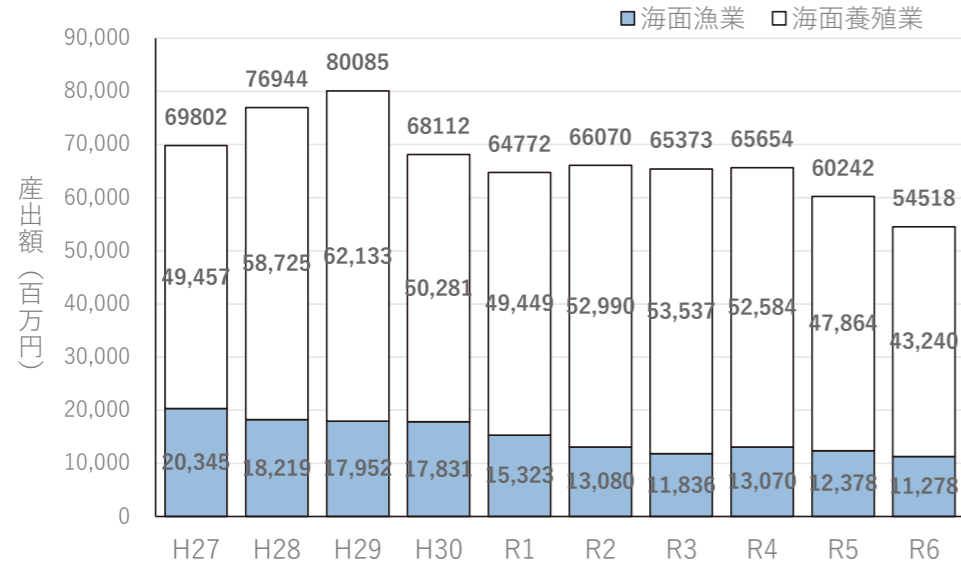
【海面養殖業産出額の魚種別構成比 (R6)】



(資料) 農林水産省「農林水産統計年報」

- 令和6年（2024年）の海面漁業及び海面養殖業の生産量は54,518トンで、前年の60,242トンに比べ5,724トン減少（対前年比90.5%）。全国第18位となっています。
- その内訳として、海面漁業生産量は11,278トンで、前年の12,378トンに比べ1,100トン減少し、全国第31位となっています。
- 海面養殖業生産量は43,240トンで、前年の47,864トンに比べ4,624トン減少し、全国第8位となっています。

【海面漁業及び海面養殖業の生産量の推移】



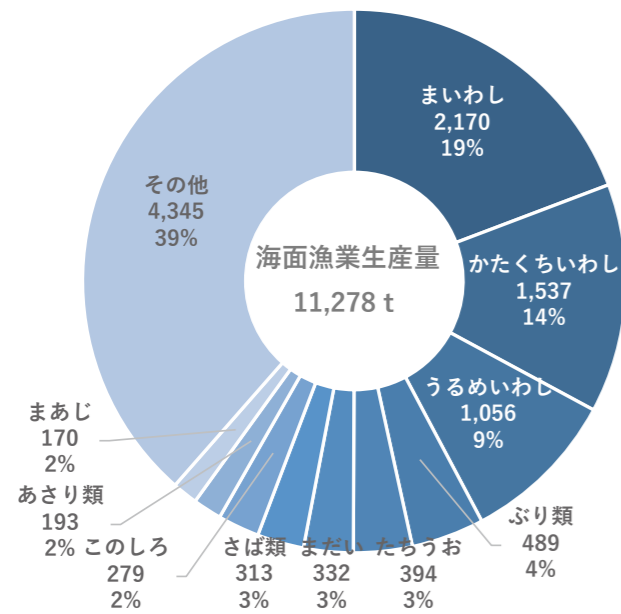
のり養殖



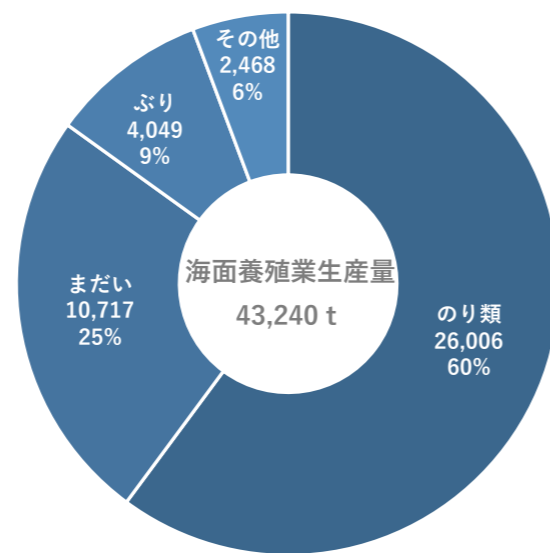
まだい

- 魚種別に見ると、海面漁業では、まいわしが2,170トン（構成比19%）、かたくちいわしが1,537トン（構成比14%）、うるめいわしが1,056トン（構成比9%）の順となっています。
- 海面養殖業では、のり類が26,006トン（構成比60%）、まだいが10,717トン（構成比25%）、ぶりが4,049トン（構成比9%）の順となっています。

【海面漁業生産量の魚種別構成比（R6）】



【海面養殖業生産量の魚種別構成比（R6）】



(資料) 農林水産省 「農林水産統計年報」

新漁業取締船あまくさ就役式

- 令和8年（2026年）3月17日、新漁業取締船「あまくさ」の就役式を開催しました。
- 「あまくさ」は、過去に退役した「ひご」、旧「あまくさ」の2隻の代船として、効率的に漁業の取締を行うために建造したものです。
- 就役式には、国会議員や県議会議員、沿海市町の首長など計50名以上の来賓をお招きし、新船や乗組員の紹介、知事から県旗の授与などを行いました。
- 就役式の終了後には、約30分の記念航海を行いました。



就役式の様子



記念航海の様子

スマート水産業



ICTを活用した自動給餌システム



自動給餌中の生け簀

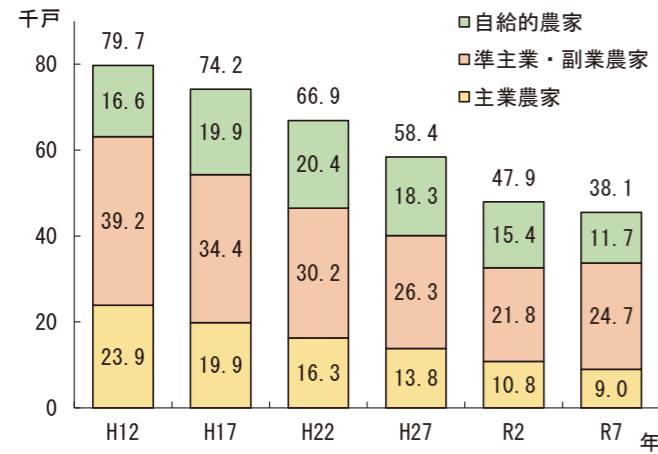
- 熊本県では、ICTをはじめとする先端技術を活用し、水産資源の持続的な利用と水産業の成長産業化を目指すスマート水産業を推進しています。
- その一環として国の事業を活用し、漁船漁業や養殖業におけるスマート機器の導入を行う漁業者への支援を実施しています。
- また、水産業普及指導員が事業を活用する漁業者を伴走者として支援し、導入機器の効果検証や活用方法の助言を行うとともに、得られた成果の普及にも取り組んでいます。
- これまで、漁船漁業では魚群探知機や電子操業日誌、魚類養殖では自動給餌機や魚体重推定カメラなどのスマート機器が導入されており、作業負担の軽減、作業時間の短縮などの効果が確認されています。
- 今後も国の事業を活用しながら、県内水産業におけるスマート水産業の社会実装を行い、スマート水産業の普及を図ってまいります。

5 担い手の概要

(1) 農業

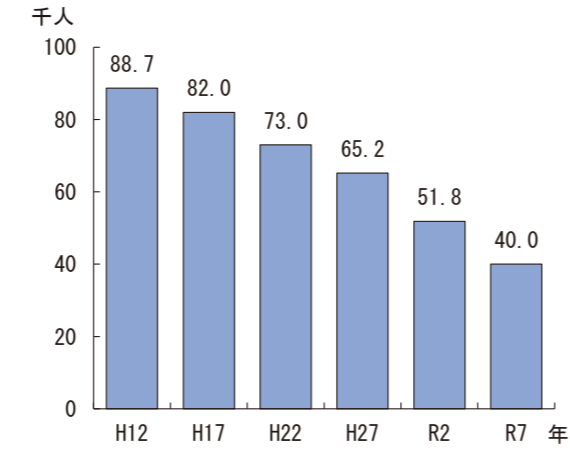
- 総農家数が全国的に減少しているなか、熊本県においても、令和7年（2025年）は令和2年（2020年）より9,828戸減少し、38,051戸となりました。
- 基幹的農業従事者（ふだん仕事として主に自営農業に従事している者）数は、後継者の減少や高齢化の進展によって減少傾向にあり、令和7年（2025年）には40,036人となっています。

【主副業別農家数の推移】



（資料）農林水産省「農林業センサス」「農業構造動態調査」

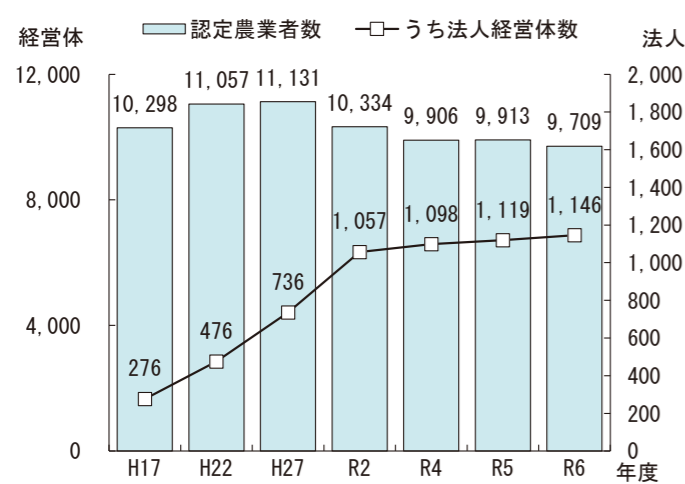
【基幹的農業従事者数の推移】



（資料）農林水産省「農林業センサス」「農業構造動態調査」

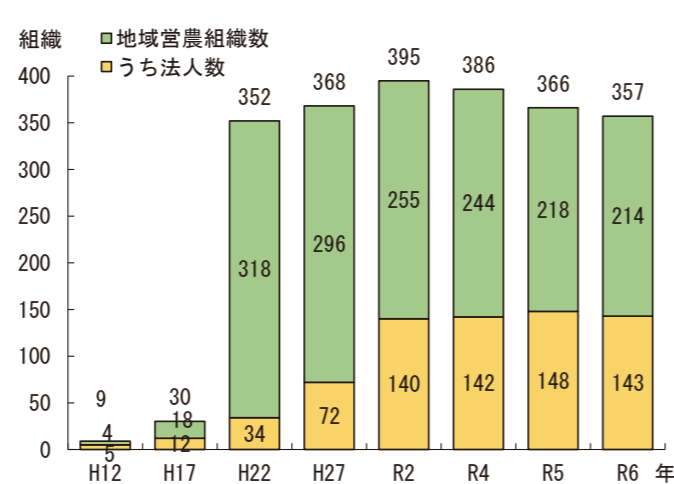
- 認定農業者数は、平成14年度（2012年度）に10,000経営体を超え、その後は横ばい状態が続いています。なお、令和6年度末（2024年度末）は9,709経営体で、全国3位の認定数となっています。
- 地域営農組織は357組織で、減少している一方、うち法人数は143法人となっています。

【認定農業者数の推移】



（資料）農林水産省「認定農業者の認定状況」

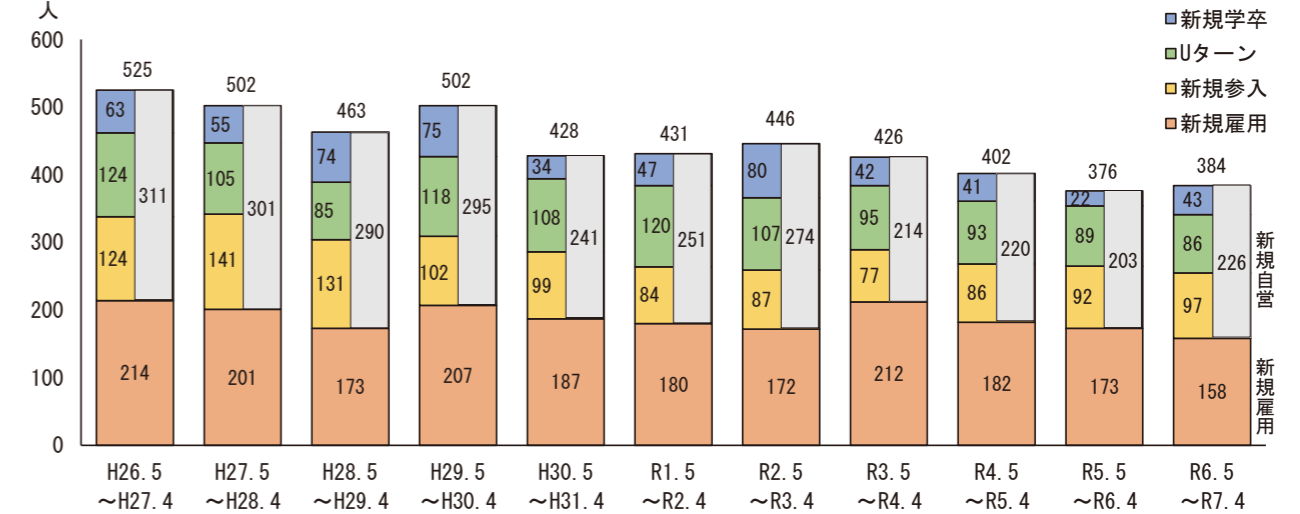
【地域営農組織数の推移】



（資料）県農林水産部令和6年度末調べ

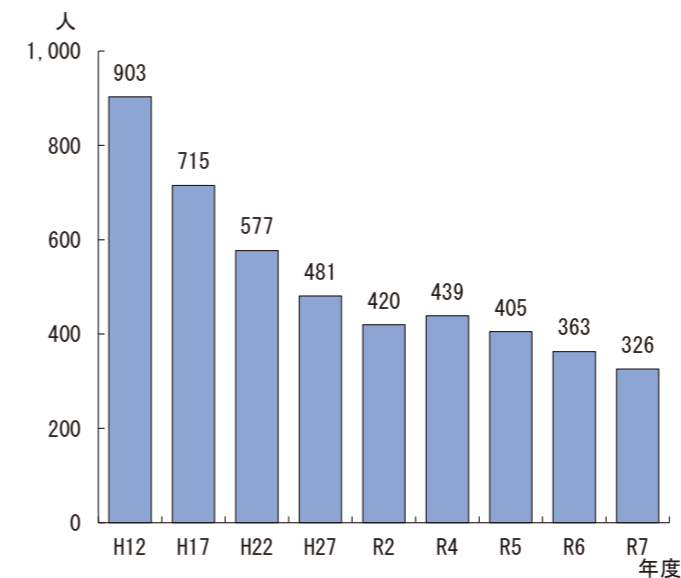
- 令和6年（2024年）5月から令和7年（2025年）4月までの新規就農者数は384人（前年比8人増）となりました。
- 令和7年度（2025年度）の青年農業者数は326人（前年比37人減）となりました。

【新規就農者数の推移】



（資料）県農林水産部、県農業会議「青年農業者・新規就農者実態補完調査」

【青年農業者数の推移】



（資料）県農林水産部、県農業会議「青年農業者・新規就農者実態補完調査」
 （注）青年農業者とは、16歳から25歳までの者で、年間150日以上農業に従事している者。

農畜産業の担い手確保・育成策

熊本県では、「食のみやこ熊本県」の創造に向け、その要となる親元就農をはじめとした担い手の確保・育成を強力に推進しています。

令和7年度には、「新しい熊本農業のリーダーズ共創事業」の創設や「農業経営・就農支援センター」を設置しました。

中学生等若年層への就農啓発(夢の種まきプロジェクト)から就農希望者へのセミナー開催やワンストップ相談対応、就農に必要な認定研修機関での技術習得研修やリカレント教育、就農定着のための仲間づくり、経営発展・継承までの就農支援策の強化・充実を図っています。



就農相談会・就農セミナー



夢の種まきプロジェクト 農業アカデミー

(2) 林業

○認定事業体※における従事者数は、平成27年（2015年）の1,012人から令和6年（2024年）の847人と、約16%近く減少していますが、一方で39歳以下の若年層は、平成27年（2015年）の280人から令和6年（2024年）の329人と約16%増加しています。

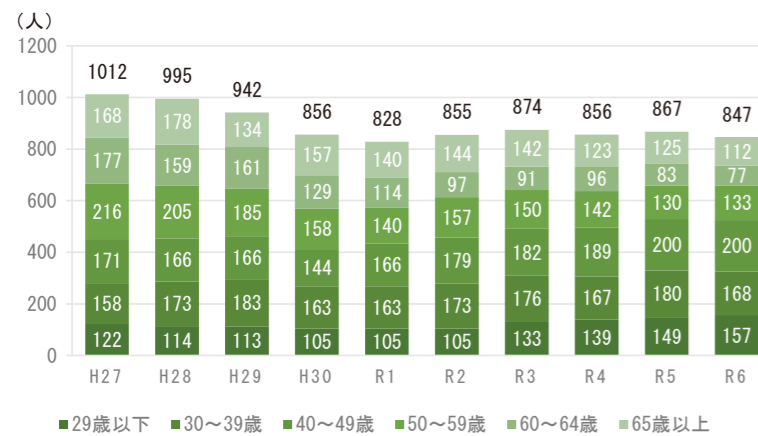
※「林業労働力の確保の促進に関する法律」に基づき知事の認定を受けた事業体。

○令和6年度（2024年度）の新規就業者数は73人となっており、近年は70～80名で推移しています。

○くまもと林業大学校は、現場の即戦力となる人材を育成するため、令和元年度に開校し、令和7年度までの卒業生121人全員が林業関係に就職しました。

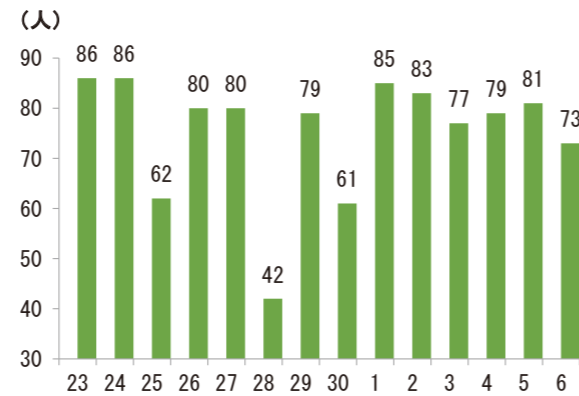
○地域林業の中核的担い手である森林組合は、森林の公益的機能の維持・増進を図るため、森林整備事業及び販売・加工事業等に取り組んでいます。

【林業従事者数と年齢構成】（認定事業体対象）



（資料）県林業振興課調べ（認定事業体（※）を対象）

【新規就業者数の推移】（認定事業体対象）



（資料）県林業振興課調べ

【熊本県の森林組合の状況（R6）】

項目	単位	本県	1県当たりの全国平均
組合数	組合	15	13
組合員数	人	34,792	30,698
1組合当たりの組合員数	人	2,319	2,361
組合員所有森林面積	ha	282,957	219,756
組合雇用労働者数	人	396	255
事業総利益	百万円	2,432	1,358
木材取扱材積	m ³	434,596	180,464
新植面積	ha	822	373
保育面積	ha	4,691	2,894

（資料）全国：農林水産統計
本県：県団体支援課調べ

くまもと林業大学校

くまもと林業大学校では、本県の充実した森林資源を「伐って、使って、植えて、育てる」という循環利用を確立し、「持続的で活力あふれる『くまもとの森林・林業』を創る」ため、次世代をリードする林業担い手の確保・育成を図っています。



令和8年度林業大学校の入校式

(3) 水産業

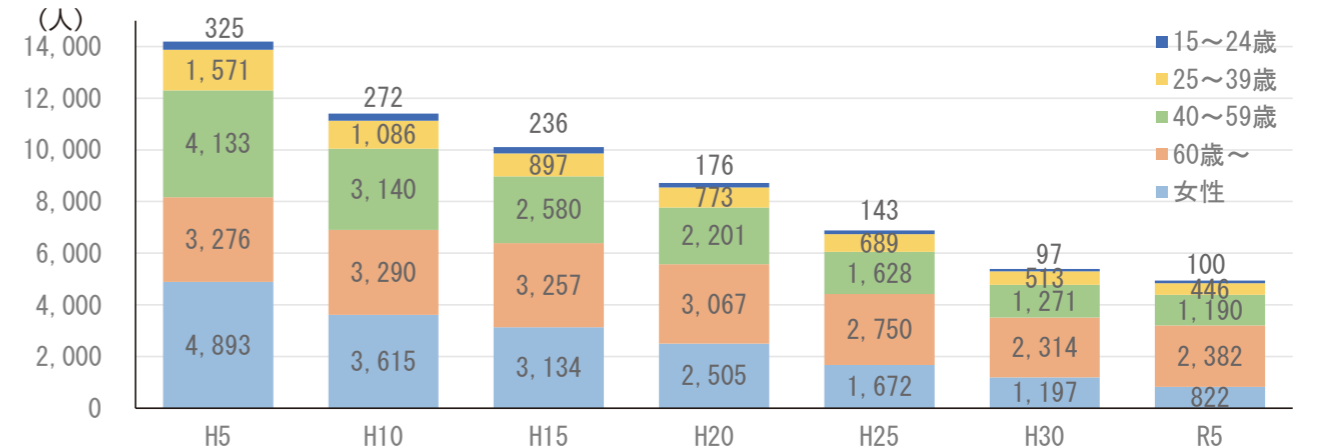
○令和5年（2023年）の本県漁業就業者は、全国9位の4,118人で、平成5年（1993年）の29%にまで減少しています。

○漁業就業者のうち、60歳以上の占める割合は58%と高齢化が進行しています。

○漁業就業者に占める女性漁業者の割合は20%で、全国平均の10%と比べると高くなっています。

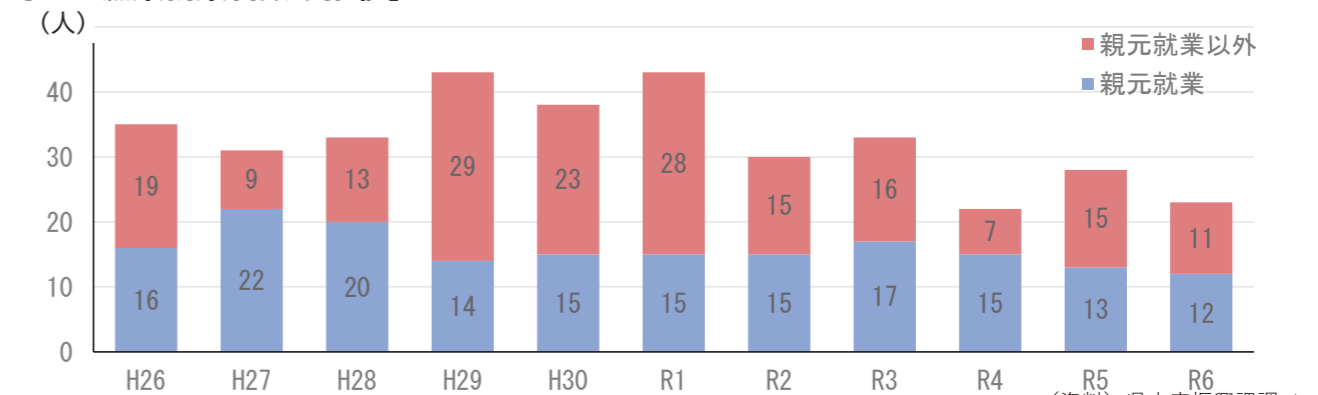
○令和6年度（2024年度）の新規漁業就業者数は23名で、令和5年度（2023年度）の28名よりも増加しています。

【漁業就業者数の推移】



（資料）農林水産省「漁業センサス」

【新規漁業就業者数の推移】



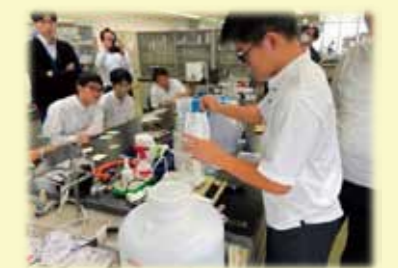
（資料）県水産振興課調べ

漁業者の担い手育成

- 熊本県では、新たに漁業に就業する方が円滑に就業・定着できるよう、漁業体験や指導者とのマッチング、就業前後研修などをワンストップで支援しています。
- また、次世代の水産業を担う人材を確保するため、県内唯一の水産系学科がある天草拓心高校マリン校舎と連携した取組みを進めているところです。
- ICTなどの先端技術のスマート機器が活用されている現場での実習や水産加工施設の見学、県水産研究センターのオープンラボを活用した水産加工実習等を開催しました。
- より多くの方に水産業への関心と理解を深めてもらえるよう、これからも取組みを進めていきます。



スマート機器の現場実習



水産加工実習

第3章 「食のみやこ熊本県」の創造に向けた取組み

1 「食のみやこ熊本県」創造推進ビジョン概要

- 熊本県は全国有数の農業県であり、多彩な農林畜水産物がバランス良く生産されているにも関わらず、食関連の都道府県ランキングでは全国20位台(R6年)という結果であり、熊本が「食のみやこ」を目指すためには、「食」のイメージ向上が課題です。
- 「食のみやこ熊本県」の創造に向けて、従来の高付加価値化や販路拡大等の施策をしっかりと進めつつ、課題に対して様々な施策を展開するため、令和7年(2025年)7月に「食のみやこ熊本県」創造推進ビジョンを策定しました。

「食のみやこ熊本県」創造推進ビジョン(概要版)

目指す姿 熊本の食で世界を魅了し、農・食関連産業が活性化しながら県民が豊かになる

ビジョン策定の主旨

- ・農・食関連産業は生産・加工・流通から観光業まで裾野が広く、雇用の創出や経済発展に大きく寄与する重要な産業。
- ・日本の食を支える本県のポテンシャルを最大限に活用し、関係者が一丸となって農林畜水産物等の高付加価値化や販路拡大を推進していくため、その道標となるビジョンを策定するもの。

熊本の農林畜水産物の現状

- ・農業産出額全国5位/生産農業所得全国2位
- ・バランスよく多様な畜産(野菜、畜産、果実等)
- ・首都圏等へ多くの農産物を流通・販売
- ・農林畜水産物の輸出額過去最高を更新

農と食を取り巻く情勢と課題

【農と食を取り巻く情勢】

- ・担い手の減少や高齢化
- ・生産資材価格、輸送コスト等の高騰
- ・地産地消行動の低下、県民の食関心の不足
- ・「食」のイメージ、認知度の不足
- ・国内外からの観光客の増
- ・世界の食関連市場規模の拡大

【ビジョン策定に向けた課題】

- 県民の食関心の向上(地産地消、食育)
- 高付加価値化(6次産業化・ブランド戦略)
- 販路拡大に向けたPRの強化
- 観光客の食の消費拡大(レストラン等の充実)
- 輸出の拡大
- 農・食関連産業の集積

方針及び取組み

- 熊本の「食」の基盤の構築**
～県民が熊本の食の豊かさを知る・食でつながる～
◆1-1 「食」への関心度・理解の醸成
◆1-2 食の関係者によるネットワークの構築
◆1-3 地産地消の推進
◆1-4 食育・食文化の継承
- 高付加価値化と消費拡大**
～熊本の食を買いたくなる・訪ねたくなる～
◆2-1 6次産業化(加工・新商品開発)の推進
◆2-2 認知度向上と販路開拓
◆2-3 食をフックとした観光誘客の推進
◆2-4 食の魅力向上につながる料理人の育成
◆2-5 輸出拡大支援と海外での認知度向上
◆2-6 官民による食を消費する機会の創出
- 農・食関連産業の集積とイノベーション**
～食を起点とした新産業が活性化する～
◆3-1 地域内生産物を活かす企業・研究開発機能等の集積(県南フードバレーステージ2の展開)
◆3-2 産学官連携によるフードテック・アグリテックの展開

重点7項目のプロジェクト

- くまもとの「食」県民運動!**
・SNSで期間ごとに品目に絞ったPRや県内の「食」が集結するイベントを開催し、食への理解・関心を醸成。
- オンラインによる販売強化!**
・大都市圏でのフェア開催や展示会への出展などの取組みと並行して、Edによる流通・販売網を強化。
- 来なっせ 食べなっせ くまもと!**
・熊本の「食」コンテンツの磨き上げとPRを強化し、「食」による観光誘客と観光消費額を増加。
- 情報発信力のある料理人の育成!**
・県産食材の高付加価値化と消費拡大を図るため、県産食材を活かし、魅力を発信する料理人を育成。
- ブルーオーシャンへの輸出開拓!**
・輸出拡大に向けて、市場調査やテストマーケティングを実施し、次なる市場(新規国)を開拓。
- くまもと県南フードバレーステージ2!**
・県南の食文化を活かした商品開発支援と、食品関連企業の育成と誘致に取組み、県南地域を活性化。
- 熊本発フードテックの展開!**
・先端技術を活用し、食の可能性を広げるフードテックの取組みを支援し、優良事例を創出。

対象期間 R7～R9年度とし、『くまもと新時代共創総合戦略』及び『食料・農業・農村基本計画』等の具体的施策として位置づけ。

推進体制 関係機関連携による推進体制を構築

2 「食のみやこ熊本県」創造推進ビジョン実現に向けた取組み

(1) 熊本の「食」の基盤の構築

- 熊本の食の魅力の再認識、県内の食の関係団体間の情報共有およびネットワーク構築を目的として、生産・流通・飲食店・商工・観光・教育などの関係機関約50団体約100名の参加のもと『チーム「食のみやこ熊本県」ネットワーク交流会』を令和7年(2025年)11月に開催しました。
- 県内外に向けて、より効果的に「食のみやこ熊本県」の創造に向けた広報活動を推進するため令和7年(2025年)5月に「食のみやこ熊本県」ロゴマークを制作しました。県内企業を中心に、チラシのぼり等の販促資材だけでなく、商品パッケージにも使用される事例も増えてきています。



チーム「食のみやこ熊本県」ネットワーク交流会



「食のみやこ熊本県」ロゴマーク

(2) 高付加価値化と消費拡大

- 大都市圏や海外、インバウンドなどをターゲットに、「熊本の食を買いたくなる・訪ねたくなる」ための取り組みを進めています。
- 東京・大阪・福岡でのエリアジャックイベントに加え、大阪・関西万博(EXPO2025)への出展や、福岡をターゲットとした「食のみやこフェス」の新規開催等により、本県の食の魅力発信や商談機会創出に取り組んでいます。
- また、県内料理人が県産食材の魅力や情報発信を学ぶシェフズアカデミーや全国的に有名なシェフの誘致など、食の魅力向上につながる料理人育成にも取り組んでいます。
- その他、加工品開発などの6次産業化、トップセールス等による輸出拡大支援等にも取り組んでいます。



大阪・関西万博での本県食の魅力発信



食のみやこフェスの概要

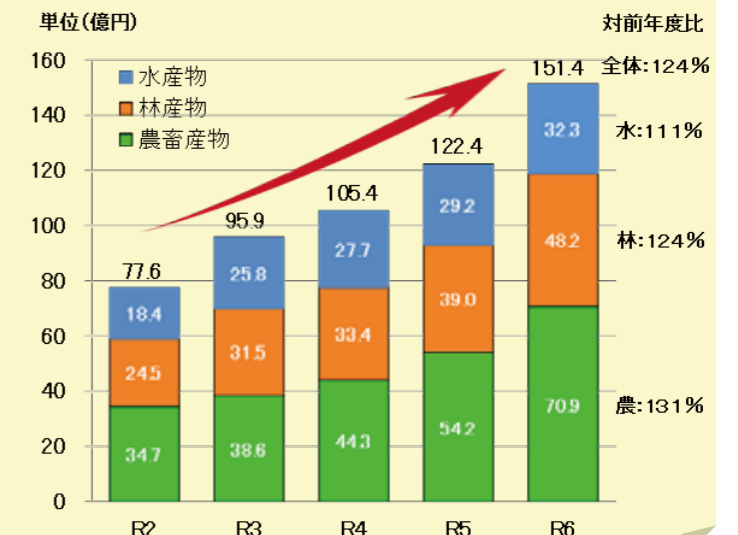
6次産業化は全国3位、輸出実績は150億円を突破

- 本県の農業生産関連事業販売額(R6)*は1,048億円で過去最高更新(全国3位)。
- 県産農林畜水産物等の輸出額(R6)は151億4千万円で過去最高更新。

農業生産関連事業販売額の推移 (億円)

年度	R2	R3	R4	R5	R6
1位	北海道 1,593	北海道 1,493	北海道 1,638	北海道 1,598	北海道 1,501
2位	静岡県 1,002	静岡県 1,047	静岡県 991	静岡県 1,080	静岡県 1,092
3位	福岡県 824	熊本県 788	長野県 917	熊本県 889	熊本県 1,048
4位	熊本県 790	福岡県 777	熊本県 861	千葉県 852	長野県 927
5位	愛媛県 759	愛媛県 774	宮崎県 814	愛媛県 834	愛媛県 848

*農産加工、農産物直売所、農家レストラン、観光農園、農家民宿の合計(農林水産省「6次産業化総合調査」)



(3) 農・食関連産業の集積とイノベーション

- フードバレー構想のさらなる推進に向け、農産物や酒等の高付加価値化及び食品関連企業の育成・誘致を重点方針と定めたフードバレー構想ステージ2を策定しました。
- 県南における構想の浸透を図り地域全体で取り組みを盛り上げていくため、「食のみやこくまもと県南フードバレー」経済団体との連携・交流会を開催。商工会議所・商工会や自治体職員等約150名が参加しました。



「食のみやこくまもと県南フードバレー」経済団体との連携・交流会

第5章 研究機関の取組み

1 各研究機関の概要

(1) 農業研究センター

- 熊本県農業研究センターは、農業技術開発の拠点として平成元年（1989年）4月に開所しました。センターには農畜産物の専門的研究を行う7つの専門研究所と地域の特性に応じた作物の試験研究を行う3つの地域研究所があります。
- 熊本県農業試験研究推進構想に基づき、農業者が安心して農業に取り組めるよう、農業所得の最大化と併せて、環境にやさしい農業や地球温暖化（高温化）にも対応した新品種や革新的な生産技術の開発に取り組んでいます。

農業研究センター
ホームページ X (旧Twitter)

高温登熟性に優れ多収な水稲極早生品種「にじのきらめき」の特性の解明

トマトキバガの総合防除体系構築に向けた生態の解明

被害リスクは↑トマトで高い

←天敵タバコカスミカメはトマトキバガを捕食する

(2) 林業研究・研修センター

- 熊本県林業研究・研修センターでは、スギ等の育林に関する分野や木材の加工・特用林産に関する分野の試験研究のほか、林業担い手の技術向上のための研修や森林・林業に関する情報発信に取り組んでおり、くまもと林業大学校の県北校の拠点施設としても活用されています。
- 最近の研究では、花粉症対策の取組みとして、人工林伐採跡地に花粉の少ない苗木を植栽できるよう、少花粉や無花粉スギの品種開発等に関する試験研究を実施するとともに、大径化する丸太の新たな用途開発に向けた試験研究など重点的に取り組んでいます。

花粉の少ないスギの苗木の育成状況

林業研究・研修センターHP (熊本県HP内)

(3) 水産研究センター

- 熊本県水産研究センターでは、熊本県水産基本計画に基づき、水産資源の回復と魅力ある水産業の創出を目指して、試験研究等に取り組んでいます。
- 調査研究の実施にあたっては、国、関係県はもとより大学等の研究機関と積極的に連携して研究開発の高度化・効率化をはかるとともに、各広域本部水産課の水産普及指導員、市町、漁業者等と連携しながら研究成果や水産技術の活用・普及を行っています。

漁業調査船「ひのくに」

水産研究センターHP (熊本県HP内)

2 品種の開発

※「」は品種名

米 「くまさんの輝き」



- ◆ツヤ・粘りがある極良食味品種。高温登熟性に優れ、倒伏しにくい。
- ◆R1年度 品種登録

はなにしき 「華錦」



- ◆酒造好適米品種。倒れにくく、大粒で充実良好。吟醸酒～純米酒の製造に使用。
- ◆H28年度 品種登録

茶 「熊本TC01」



- ◆新芽が大きく、濃い。「やぶきた」より収量・荒茶品質が優れる。
- ◆R5年度 品種登録

花き

「熊本FC01」(ホワイトトーチ)



- ◆苞（花に見える部分）は純白で、茎は細く、品質が優れる湿地性カラー。疫病にも強く多収。
- ◆H24年度 品種登録

「熊本FC03」



- ◆苞が大きく緑が濃く、商品性が優れるグリーン系の湿地性カラー。収量は「ホワイトトーチ」と同程度。
- ◆R6年度 品種登録

いぐさ

すずかぜ 「涼風」



- ◆収量が多く、茎が中太で十分硬く、畳表の生産性が高い。枯死株が少ないのも特徴。早刈栽培向け。
- ◆H26年度 品種登録

野菜

「熊本VS03」(ゆうべに)



- ◆収量性に優れ、特に年内収量が多い。糖酸のバランスが良く、大玉で着色も優れる。
- ◆H28年度 品種登録

「ヒゴムラサキ2号」



- ◆「ヒゴムラサキ」の着色性を改善し、舌出し果の発生を軽減。
- ◆H29年度 品種登録

果樹

「熊本EC12」(ゆうばれ)



- ◆12月に成熟し、高品質で食味が良く、栽培しやすい早生カンキツ。
- ◆R1年度 品種登録

「熊本EC12」が拓く新たな市場

「熊本EC12」は、面積5ha、生産量30t(R6年産)栽培されています。また、令和7年1月から「ゆうばれ[®]」として台湾に輸出され、好評を得ています。

※「ゆうばれ[®]」は熊本県果実農業協同組合連合会が取得した商標名。登録品種名は「熊本EC12」。



「ゆうばれ[®]」の果実

畜産

しげなみつる 「重波弦ET」



- ◆育種価評価で枝肉重量、ばらの厚さが歴代1位で総合的にも歴代トップクラスの重波系褐毛和種雄牛。
- ◆R7年度 選抜

第6章 農林水産部組織図（令和8年4月1日現在）

